

田迎小学校 入学式のようす

四月十二日(火)晴天の日に田迎小学校の入学式が午前十時から行われた。当日は、すばらしい天気にも恵まれ、九時すぎるとあちこちの路地から保護者同伴の新入生が車や歩いて田迎小に向かつて登校して来ていた。

保護者は、どこも御両親で子どもと三人組が多くみられ、両脇にお父さん、お母さん、中に子どもと仲よく手をつないでの登校である。



校門に着いたら、すぐに写真を撮っていた。また、入学おめでとうの看板の前には行列ができていた。入学する子どもを中心に親子づれの写真撮影である。

しかし、例年に比べると祖父母の方々の姿をあまり見かけなくなつた。今までは、親子づれに祖父母と五名での入学式風景をよくみていた。今年は何人中心である。田迎地区が若い人の人口が増加したのか知れない。また、母親の着物が今年、なか／＼見つける事が出来なかつた。

さて、今年の新入生の人数は百七十八名で六クラスの編成との事である。教室の前で受付をした新入生は、上級生が机の所までつれて行き、かばんの置き場所を教えていた。子ども達は、本当におとなしく、自分の席について

いた。入学式は十時に始まり、校長先生の話や上級生の歓迎のことば等があつて無事に終了した。入学式後は記念写真を撮つて我家にむかつていた。

交通事故から守るぞ

四月十四日(木)、午後一時三十分から、熊本南警察署と田迎校区防犯協会と交通安全協会合同による、一年生の下校時における見送り隊が実施された。

新入生が入学した時期は、初めて保護者から離れての交通行動をとる事から新入学期における交通事故が多くなる。そこで、下校時における見送り隊の実施が計画されたのである。

当日は、指導員及び協力員等、約二十名が参加して児童の見送りにあたつた。一時三十分一年生が校

見送り隊



庭に集合して、帰宅方面別に別れて集まり、担任の先生方が方面ごとに別れた児童を引率して、北門、西門に別れて、それ／＼の通学路を帰途についた。

参加した会員は、児童と共に各方面に別れて下校した。途中では横断の仕方や道の歩き方を指導しつつ、児童が家に着くまで見送りを行った。

遠い子どもは、一人で流通団地の近くまで帰る者もいて、家の前まで見送りをした。児童の親も途中で出迎えていた人もいた。

田迎の史跡めぐり

シリーズ②

光明寺跡

肥後国誌に記するところによると

光明寺 洪徳山

禅寂家立田泰勝寺ノ末

寺ナリ、開基年代分明

ナラズ、退転ニ及ブニ、

寛文中田井島村、長徳

寺ノ住持欣首座コレヲ

再興ス。欣首座死シテ

後、無住トナルニヨツ

テ泰勝寺之ヲ支配ス。元

禄三年(一六九〇)末寺トナ

ル、寺地八年貢地ナリ。



十五センチ

（仏身四十四センチ位、蓮台）

右の長徳寺は長福寺(のち福田寺と改の誤。明治維新の際、廃寺となつたものと思われる。出仲間神社横の太田氏宅が寺の跡といわれている。

それ故に邸内に、五輪塔の名残りの数基や石仏などがある。

この寺の本尊であった阿彌陀如来の座像(木造)は明乗寺に保管されている。手首や蓮台など損傷し、金箔などもはげ落ちてはいるが、その古い由緒が偲ばれる立派な作りである。

十五センチ

（仏身四十四センチ位、蓮台）

自治会役員紹介

平成二十三年度の新自治会役員が決まりました。

一町内自治会長

米村 国廣氏

副会長

田中 栄治氏

二町内自治会長

太田 国人氏(新)

副会長

太田 勝義氏

田口 亮一氏

吉住 一定氏

三町内自治会長

木場 好氏(新)

副会長

北原 徳幸氏

坂梨 全紀氏

早川 和子氏

女性の会総会開かる

四月十日(日)、田迎コミセンに於いて女性の会の総会が行われました。

総会に於いては、今年の行事計画案や予算案等が審議され、承認されたあと、二十三年の役員が選出されました。

会長 木場 ゆみ氏(3)

副会長 前田香代子氏(1)

会 計 小西 美保氏(2)

監 事 山崎 静子氏(1)

吉住 慶子氏(1)

久江氏(2)

女性の会は、今後、二の井手用水を浄化するEM団子やEM菌、EM活性液等を作つて二の井手用水をきれいにする運動等に力を入れるとの事です。また、先日の赤十字による献血運動にも大いに活躍されています。

五町内自治会長

西 昭氏(新)

副会長

西 栄一郎氏

自治会長及び副会長の方々には、今後二年間にわたつて、町内のお世話をお願いする事と思ひます。地域住民の皆様方も御協力をお願い致します。

表彰おめでとう

平成二十二年度、交通安全功労者及び永年無事故運転等で次の方々表彰されました。

熊本県警察署管内交通安全功労者

一町内 岩本 義邦氏

一町内 高本 勝利氏

熊本県南警察署管内

五町内 西田 宏志氏

永年無事故表彰

四〇年 有田 正春氏

村田 弘之氏

谷田 文昭氏

三〇年 杉本久美子氏

本町におめでとうございました。

編集後記

三月十一日の東日本大震災に遭われた方々に対して心からお悔やみ申し上げます。

私達も今回の大地震を教訓として、日頃から災害に対しての心がまえを作つておきましょう。

災害に備えて、隣近所との連携も考えておきましょう。

今年も、れいすいをよろしくお願ひします。